

SAGAMIHARA GREEN

相模原市まち・みどり公社機関紙
さがみはらグリーン

★「さがみはらグリーン」は、まち・みどり公社本社（けやき会館内）をはじめ、市内の市立公園や公民館、図書館等に配架しています。

Vol.62 2020.03

URL <http://www.sagamiharashi-machimidori.or.jp>

2～3ページ▶

大場利一氏に学ぶ 蘭(ラン)の世界

みどりのボランティア団体紹介
～東若会(とうわかかい)～

4ページ▶

市内の動植物を訪ねて

絶滅危惧IB類 カザグルマ (キンポウゲ科)

C. walkeriana, coerulea
写真 ©Toshikazu Oba

暮らしを彩るボタニカル・ライフ ～多肉植物 [サキュレント プランツ] ～

ガーデンドesigner
志村みかさん

～種類を知ると、育て方や選び方もわかります～
ぷっくりと肉厚の葉がかわいらしい多肉植物は、中南米や南アフリカの砂漠、海岸などの乾燥地帯生まれの植物。めったに雨が降らず、強い日差しがじりじりと照りつける、そんな環境のなかでも自らを生かすため、水を蓄えられる体へと進化させました。ふくらんだ葉は、いわば貯水タンク。英語では「Succulent Plants (水分が多い植物)」と呼ばれています。
太陽光を浴びることで成長し、育っていくのが多肉植物です。

サボテンやエアプランツも含め、多肉植物は多種多様。それぞれの種類で特徴も育て方も違います。

たとえば、「ベンケイソウ科」の多肉植物は、肉厚で茎が短く、低木のようになったり、形もさまざま。屋外の日差しのもとで成長し、春から夏に小さな花を咲かせる種類もあります。
また、「キク科」の多肉植物は、グリーンネックレスをはじめ、枝垂れて育つタイプが多く含まれます。ほかの科の多肉植物より水を多く必要とし、水耕栽培できるものもあります。
それぞれ違いがありますから、最適な方法で育てるためには、必ず名前をチェックしましょう。

なお、寄せ植えにするときは、同じ仲間同士で。必要とする水の量や光の当て方が似ているため、初心者でもうまく育てられます。



コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社は、相模原市まち・みどり公社が推進する「みどり豊かなまちづくり」に協賛しています。

公益財団法人 相模原市まち・みどり公社は、地域のために活動する自治会を応援しています。

特集 蘭

大場利一氏に学ぶ 蘭(ラン)の世界

大場利一氏 プロフィール
 ■神奈川県出身・在住
 ■相模オーキッド代表として蘭(ラン)の育種・生産に従事。
 ■NHK「趣味の園芸」講師や「世界らん展」における組織委員会幹事を歴任。神奈川県内・相模原市内においても、新たな蘭の魅力をはじめ栽培管理についての初心者にもわかりやすい講習が好評。



パフィオペディラム

【ランとは…】

ラン科 [Orchidaceae] の植物の総称で、単子葉植物の中で最も形態が進化した植物です。地球上に、花をつける植物は約25万種あるといわれていますが、その約10%をランが占めるほど、種子植物中の最大の「科」であり、原種だけでも約750属、25,000種に上るといわれています。



【ランの見分け方～花の構造】

簡単な見分け方は、花を見ればわかります。他の花のほとんどは、花の中心から放射状に花弁をもつ点対称であるのに対し、蘭は花弁の1枚が変化したリップ(唇弁)を囲むように2枚の花びらが左右に、その上に1枚、下に2枚の萼片が付いていることが共通していて、花の左右が対称です。

また、いわゆる雄蕊と雌蕊が無く、両者が合体した1本の蕊柱となっているのも、ラン科植物独特の形態です。



カトレア



リカステ



エビネ



サギソウ



ネジバナ

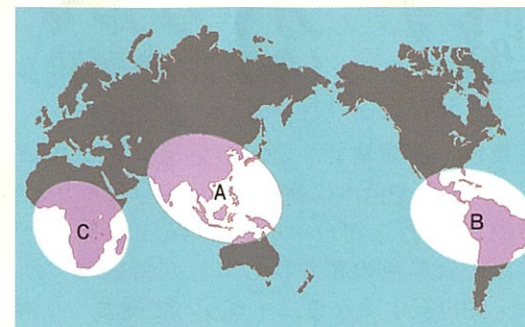
写真提供：相模原市立博物館

【ランの分布～原種の宝庫 世界の三大地域】

ランの原種は、意外にも、地球上の南極大陸を除くほとんどの大陸にくまなく分布しています。

ランの原種の宝庫とされる主な三つの地域は、いずれも熱帯圏にあるため、「ラン＝暑い地域の植物」と勘違いされがちですが、熱帯地域であっても、大半は、標高の高い場所(1,000～3,000m)で、しかもその地の高木の幹や枝に自生するなど、暑さを嫌うものも多くあります。

原種の自生地がわかると、その種の性質もわかります。まずは、自生地をチェックしましょう。



【栽培管理のポイント～ミニコショウランの冬場の管理と花後の処理】

花期が長く、胡蝶蘭の名で知られるファレノプシスは、ギリシャ語の「蛾のような」に由来します。原産地は台湾、東南アジアからインド、オーストラリアの一部で、樹木の幹や枝に根を張り、そこに伝わる養水分を摂取している「着生蘭」です。着生蘭は、シンビジウム等の「地生蘭」とタイプが異なり、根が、木や岩の上にとしっかりと張り付いて生息する性質から、乾燥した環境を好みます。



ポイント

- 1. 水と肥料** 水と栄養の与え過ぎは失敗のもと。水はしっかり乾くまで与えない。特に栄養は最小限に、冬と夏は禁物。
- 2. 温度管理** 冬場は最低温度10℃を維持できれば15℃以上に。10℃まで下がる場合は極力水分を減らします。
- 3. 花後の処理** 2番花を楽しむには…花茎の下から3節目の上で切ります。ただし、小さい株や状態の悪い株は、根本から切ります。
- 4. 植え替え** ギフト用の寄せ植え(3本立てなど)花が終わった後、1つ1つの株本来のサイズに植え替えます。
- 5. 植え込み材料** 管理方法や環境に合わせて選びます。ミズゴケ、バークチップ、流木など、自分の管理方法や環境に合わせて種類を選びます。

これもランだと思っていませんか？

クンシラン → ヒガンバナ科

スズラン、オリヅルラン、ヤブラン、リュウゼツラン → ユリ科



クンシラン



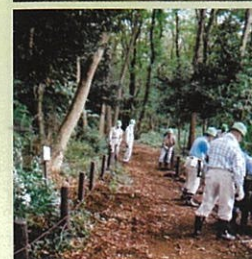
東若会 (相模原市森づくりパートナーシップ協定締結団体)

国道16号沿いのJR横浜線古淵駅近くにある「木もれびの森」の東大沼・若沼地区を活動フィールドとするボランティア団体です。平成18年に地域の自治会を中心に活動を開始し、平成29年には、「第28回みどりの愛護功労者国土交通大臣表彰」を受賞されました。

「木もれびの森」には、かつては炭や薪として生活に利用されたヒノキやナラ等も残存しています。会員の皆さんは、これらの整備や枯損木の処理、下草刈り、散策路整備のほか、伐採木を利用したカントリーヘッジ(散策路の柵)の制作や、看板や植物解説板を設置するなど、自然保護や環境の保全等を目的に活動されています。

「四季折々にすばらしい表情を見せてくれる「木もれびの森」を地域住民のみなさんはじめ多くの子どもたちに散策してもらい、森のすばらしさを知ってもらうことが、会員全員のやりがいです。」と、代表の吉田さん。

「東若会」は、平均年齢70歳以上の体力・気力にあふれた男・女合わせて二十数名のグループで活動しています。森の中で見られる希少な生き物等にも興味・関心のある方は、ぜひ、一度、見学にお出かけください。



春の山野草の女王「キンラン」

ボランティア募集

活動日：毎月 第2・第4木曜日 (2回)
 活動時間：3時間(午前中)
 連絡先：042-746-3156 吉田さん
 年会費：1,000円 ※別途ヘルメット代自己負担あり

相模原市森づくりパートナーシップ協定締結団体とは…

相模原市内に残された良好な自然環境を将来にわたって保全・継承していくため、市が維持管理方針を定めた区域について、市とルールを協議して協定を結び、市民の皆さまの手で森づくりの活動を進めていただいている市民活動団体です。現在、市内5カ所・5団体が協定を締結しています。

(公財)相模原市まち・みどり公社は、この活動・団体を支援しています。



絶滅危惧IB類 カザグルマ (キンポウゲ科)

“カザグルマ”は、キンポウゲ科センニンソウ属の落葉性つる植物で、里山の林縁付近や谷戸地の崖下などに、ササや低木に絡まりながらひっそりと自生します。市内では5月上旬～中旬頃に開花します。

白～淡紫色の花弁状の萼片が特徴の“カザグルマ”は、19世紀中頃からヨーロッパで始まった園芸用大輪系クレマチスの品種改良になくはならなかった植物です。シーボルトによってヨーロッパに持ち込まれ、大輪系園芸品種作出のための交配親として利用されました。

日本では、現在、環境省レッドリスト2019において準絶滅危惧種、また、神奈川県レッドデータブックにおいては絶滅危惧IB類にランクされ、神奈川県内では相模原市と横浜市のわずか数か所でしか確認されていません。



里山の林縁付近に自生するカザグルマ

■相模原市の自生地の状況■

自生地の多くは宅地化・工業用地化や道路開発などの影響を受けやすく、また、園芸対象としての盗掘の恐れ、外来種を始めとする他の植物との競合などといった問題にさらされています。

相模原固有の遺伝子系統を守り後世に引き継ぐためには、自生環境の保全及び自生株の保護繁殖が不可欠であり、また、根付くまでの保護と生育に必要な環境要素の特定等が必要とされています。

相模原市内においては、「相模原のカザグルマを守る会」が中心となり、相模原市や市立博物館、まち・みどり公社と連携して、自生地の現地調査・環境整備、さし穂からの増殖及び自生地に近く生育に適すると考えられる場所への移植増殖が行われています。

文・写真：「相模原のカザグルマを守る会」会長 西 康夫 さん



移植増殖と
環境要素の調査



カザグルマの花

かながわのみどりを育む **緑の募金**

みなさまのご協力をお願いいたします！

相模原市まち・みどり公社では、神奈川県知事から県緑化推進委員会としての指定を受けた公益財団法人かながわトラストみどり財団から委嘱を受けて、相模原市域において、「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律（緑の募金法）」に基づく、緑の募金運動を推進しています。

ご協力いただいた募金は、森林の整備、緑化の推進に活用されますので、緑の募金へのご協力をお願いいたします。



相模原市まち・みどり公社が推進する「みどり豊かなまちづくり」を応援しています

広告



広告



2020年3月1日発行／編集・発行所：〒252-0236 相模原市中央区富士見6-6-23 公益財団法人 相模原市まち・みどり公社
TEL：042-751-6623 FAX：042-751-2345

本紙に対するご感想、ご意見をお寄せください。ホームページにもぜひアクセスを… <http://www.sagamiharashi-machimidori.or.jp>